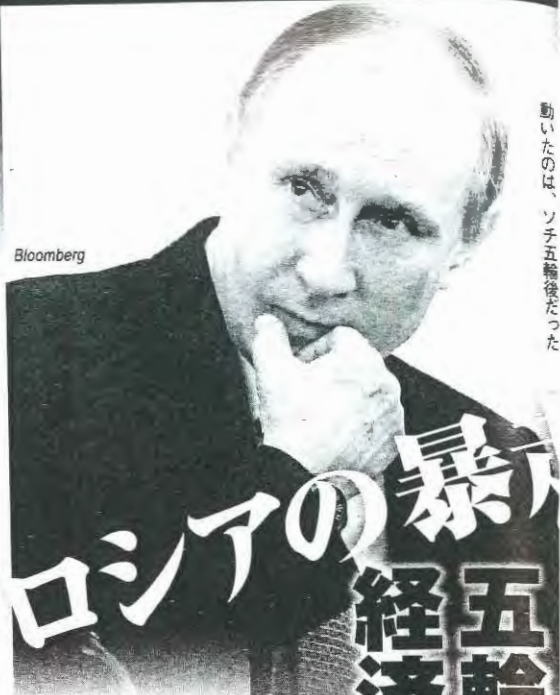


Bloomberg



# 暴走のソチ五輪前後に強引な外交 経済も八方塞がり

富国強兵と愛国主義を前面に出して突っ走ったプーチン政権の強引さが、裏目に出ている。

名越 健郎

(拓殖大学海外事情研究所教授)

プロジェクトは進展せず、隙間風が目立つ。

## 対日外交で譲歩か

八方塞がりの中、外交で期待できるのが対日関係だ。個人的親交を深める安倍晋三首相とプーチン大統領は9月3日にウラジオストクで会談し、12月にはプーチン大統領の訪日が見込まれる。5月のソチの会談で安倍首相は平和条約交渉で「新たなアプローチ」を打ち出し、極東開発支援など8項目の協力案を提示した。苦境のロシアは対日外交をここにG7(主要7カ国)の包囲網突破を図ろうとしており、北方領土問題を柔軟姿勢に転じる可能性もある。ただし、9月18日にロシア下院選があり、内政の季節に入るだけに大きな譲歩は困難だろう。むしろ、下院選での与党勝利に向けて国民を政権に結集させるため、プーチン政権はシリアなどで新たな冒険主義に出るかもしれない。

し、国民の愛国主義が異常なほど高揚した。プーチン政権はそれを追い風に、「固有の領土」とするクリミアを取り返し、大統領支持率は9割近くに跳ね上がった。

ロシアは近年、オリンピックの期間中に暴走するジンクスがある。

2008年8月の北京五輪開幕直後、ロシア・グルジア戦争が起きた。グルジア軍が南オセチア自治州で先に挑発したが、ロシア側も事前に国境で大規模演習を行い、親米のグルジア攻撃を虎視眈々と狙っていたようだ。

14年2月、ロシアが初めて主催したソチ冬季五輪の閉幕前には、ウクライナで親欧米派が決起して親露派のヤヌコビッチ政権が崩壊。暫定政権ができること、ロシアはウクライナ領クリミアを実効支配し、翌月ロシアに併合してしまった。

ソチ五輪でロシア選手団は世界トップとなる13個の金メダルを獲得

た。

だがソチ五輪では、選手団の組織的なドーピング違反があり、国家ぐるみでそれを隠蔽していたことが、世界反ドーピング機関(WADA)によって暴露された。WADAはこれを受けて、8月5日開幕のリオデジャネイロ五輪へのロシア選手団の全面的出場禁止を勧告した。

結局、参加の是非は各競技の国際連盟に委ねられたが、ロシアの国威は失墜した。

最近のロシアをめぐるニュースは、ドーピング問題や欧州サッカー選手権でのロシアのサポーターの暴徒化、政府系ハッカー集団による米民主党全国委員会ハッカー攻撃など、ロシアが「ならず者国家」になった印象を与える。富国強兵と愛国

主義を前面に出して突っ走ったプーチン政権の強引さが裏目に出て、多くの矛盾が噴出してきた。

問題は外交だけではない。今年のロシア経済は2年連続のマイナス成長になる見込みで、長期不況にあえぎ、企業倒産や失業が進みつつある。

資源依存のロシア経済は6月に原油価格が1バレル50ドル台に上昇して持ち直すか見えなかったが、英国の欧州連合(EU)離脱決定後、同42ドルまで下落した。ロシアは英国のEU離脱を歓迎と伝えられたが、貿易の4割を占めるEU経済の失速はロシアにも打撃を与えている。また、欧米諸国は、14年から続ける対露制裁を17年1月末まで延長することを決めた。停戦が続いていたウクライナ東部で戦闘再燃の動きもあり、制裁はさらに延長の可能性もある。

7月初旬の北大西洋条約機構(NATO)首脳会議は、バルト3国やポーランドに緊急展開部隊を配備するなど、対露抑止力の強化で合意した。頼みの中国との経済関係も大型

## 世界の危機 分断と反逆

